

令和5年度 学校評議員評価実施報告書

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	基礎学力の確実な定着と思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力の育成を図るため、継続して授業改善に取り組むとともに、探究活動の充実を図る。	「授業を通して基礎学力が身についた」と思う生徒が95%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生はわかりやすく教えてくれる」という回答が昨年度100%、本年度98%と高水準。外国人の生徒が多いことを考えると、特筆すべき成果と考える。 ・授業や先生に対する信頼感、満足感が生徒、保護者共に評価が高いのは、素晴らしいです
「先生は授業中に生徒一人一人の様子をよく見ている」と感じる生徒が95%以上					
計画的に粘り強く学習に取り組んだ生徒が90%以上					
自ら課題意識を持って取り組んだ生徒が60%以上					
図書館や情報機器等を利用して、意欲的に学習活動に取り組んだ生徒が80%以上					
イ	学校生活の意義を理解させるとともに、集団における役割を果たすことを通して、社会性や自己肯定感の向上を図る。	学校生活に真面目に取り組んでいる生徒が90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭を見学させてもらったが、生徒たちの一体感と充実した表情が印象的。自信も感じた。 ・世の中息苦しく生きづらい社会になってしまったのか。生徒はすばらしい。 ・学校生活に真面目に取り組んでいる割合が98%は、素晴らしい。 ・人との関わり合いも良い感じでした。
「人との係わりが増えた」と思う生徒が90%以上					
自分に対して自信を持っている生徒が85%以上					
ウ	社会的・職業的な自立に向けたキャリア教育を推進する。	目標を持って学校生活に取り組んでいる生徒が90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を持っている生徒が90%以上。生きがいも ・何ですか、、に答えてくれていると思う。 ・自分への自信と将来の夢を持っている生徒が70%台なので、身近な目標でも見つけて進めて行けると生活に張り合いが出るのでは。
ポートフォリオの作成が、自分を振り返る機会になっている生徒が85%以上					
将来の在り方や生き方について具体的に考えることができた生徒が80%以上					

エ	<p>生徒指導の充実を図り、生徒との信頼関係を築くことで、安心・安全な学習環境を整える。</p>	<p>悩みを相談できる人がいる生徒が 100%</p> <p>学校生活を通して人間関係の築き方を学ぶことができた生徒が 90%以上</p> <p>「学校は病気やケガ等の防止対策、発生時の対応が適切で安全だ」と思う生徒・保護者が 90%以上</p> <p>問題行動による生徒指導件数が 0 件</p>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「この学校を卒業したい」と答えた生徒が 100%。学校がいかに信頼され、生徒たちの支えになっているかがわかる。 ・「悩みを相談できる人がいる生徒が 100%」の 100% は目標設定が高すぎるのでは？ ・相談に付き合ってくれる先生がいるだけ幸せ。 ・目標数値には届かなかったが、「信頼できる先生がいる」（生徒）、「子どもは安心して学校に通っている」（保護者）の回答率が高いなど、安心・安全な学習環境の整備が図られていると考えられる。 ・学校への安心、安全性を保護者が高く評価している。
オ	<p>地域人材を講師とする講演会や公開授業等を通じて、地域・保護者の定時制教育への理解を図る。</p>	<p>地域人材を講師とする教育活動を年 20 回以上実施。</p> <p>「学校は子どもの能力を向上させるよう指導している」と感じる保護者が 90%以上</p> <p>「北高定時制に入学させてよかった」と思う保護者が 90%以上</p> <p>学校を信頼している保護者が 95%以上</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは、中学校のときより意欲的に登校している」の回答が 9 割超。保護者の理解をしっかりと得ていると評価できる。 ・信頼がなにより。 ・保護者アンケートで子供の成長を心身ともに感じると答えたのが 100%は、素晴らしいです。
カ	<p>業務の精選と効率化を進める。</p>	<p>業務の精選・改善・効率化を提案または実践した職員が 85%以上</p> <p>自身の役割を理解し、協力して取り組むことができた職員が 85%</p> <p>ワークライフバランスの実現に取り組んでいる職員が 85%以上</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスの実現に向けた進捗状況（達成状況）を次の成果目標としてはどうか。 ・どこまで効率化するかは、難しいですが、過重労働を緩和化する為にも検討してほしいです。